

教育目標		人間性豊かな、たくましく生きるみどりの子の育成						
重点目標		①「確かな学力」を育む ②「豊かな心」を育む ③「健やかな体」を育む ④安全で安心な学校づくり、環境整備 ⑤開かれた学校づくり ⑥教職員の働き方改革について等 ⑦「生徒指導体制」づくり ⑧小中連携の推進						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の確実な定着により自ら学ぶ意欲の向上 授業力の向上と授業改善を目指した授業公開の実施 	<ul style="list-style-type: none"> スキルタイムを設け、基礎基本の定着・学力の向上を図る。 授業公開・事後研究会を年間7回行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 週3回のスキルタイムや音読計算を実施し算数の基礎基本の力をつけることにより、授業に取り組む姿勢が向上する。 授業公開・事後研究会を行い、どの子もわかる授業づくりについて職員間で話し合い、児童アンケートにおいて「授業は分かりやすい」の回答が80%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> スキルタイムや音読計算を実施し、算数の基礎基本の力をつけることができた。しかし、繰り返し学習しなければ、なかなか定着が難しいところも見られた。 児童アンケート「授業はわかりやすい」の回答が87.1%、保護者アンケート「学校で学習したことを理解していますか」の回答が90.7%であった。職員全体が研究テーマの共通理解を図り、研究に取り組んだ成果が出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、スキルタイムや音読計算を実施する。繰り返し学習し、学習内容を定着させられるように、実態に応じた問題を用意し、取り組ませたい。 どの子もわかる授業になるよう、今後も児童の実態に応じた授業づくり、きめ細かな支援のあり方を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読計算は、さらに計算力を向上させる取り組みとして継続してほしい。 引き続き、子どもにとってわかりやすい授業づくりに取り組んでもらいたい。
	思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 思考力・表現力の育成を図り達成感を味わい粘り強く学習できる力の育成 読書活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や図に気付いたことを書き込ませたり、相手に伝わる言葉で自分の考えを書かせたりし、友だちと考えを伝え合い、学び合える場の設定をする。 始業前の朝学習として、読書及び言語活動の時間を週1回（15分程）設ける。読書記録カードの記載は図書の時間に行う。 4年生以上は、読んだ本のページ数を読書記録カードに記載させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートに自分の考えを書こうとする。 発表の内容に広がりや深まりが見られる。 1年間の読書目標80冊を達成する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全学年、めあてを提示して、授業の終わりに振り返りを書くようにしている。学年に応じて、自分の考えを書くことができていた。友だちの考えを聞き、自分の考えをより深めようとしていた。 読書に関する項目は児童・保護者ともに肯定的評価が下降傾向にある。貸出冊数と読書冊数の調査から児童の平均読書冊数は83.4冊となりほとんどの児童が目標を達成できている。しかし80冊という数字を意識して読むことはできていないため肯定的評価の下降につながったのではないかと推測される。読書記録カードの記入の仕方や管理方法を見直し、読書数を意識していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、絵や図に気付いたことを書き込ませたり、相手に伝わる言葉で自分の考えを書かせたりし、友だちと考えを伝え合い、学び合える場の設定をする。 電子化により貸出冊数を調べることができるようになったため、貸出冊数50～80冊達成者を表彰したり、クラスごとの貸出冊数を掲示したりする等これらのデータを活用していく。家での読書習慣が定着していないことがうかがえたため、家読書推進の企画を年に数回の実施に変更することも検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語力を身に付けることが必要である。書くことへの抵抗をなくすために、日常的に書かせることが大切である。 バーコード化により、本人は何冊読んだか分かりにくいのではないかな。見える化の工夫が必要である。 読書が苦手な子ども、チャレンジしたくなる取り組みや、保護者も巻き込む工夫を、検討してほしい。
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> 共に学び合う楽しさを感じさせる授業による学習意欲の向上 どの児童もわかる授業の創造 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを出し合う活動を、授業に取り入れる。 課題を工夫したり、具体物を操作したり、表現方法を工夫したりする活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアや班を使いながら、みんなの中で話し合い、意見を出し合えるようになる。 授業後の児童の振り返りが単元のねらいに沿い、次時の意欲につながるものになっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童がペアや班で話し合うことに、スムーズに取り組めているが、話し合いを深めるための手立てを考えていく必要がある。 児童が意欲的に取り組めるような課題を設定することができた。児童の振り返りを、授業で学んだこと、めあてが達成できたか等を意識して書かせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、話し合い活動の効果的な取り入れ方を考える。 考える楽しさを大切にする授業づくりを進め、学びを深められるような手立てを考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 若い先生が増えている中で、教師間の経験交流が日常的にできる体制を整えてもらいたい。 どうすれば子どもにやる気を起こさせるか、手立てを工夫してもらいたい。
温かい人間関係	命を大切にし思いやりに満ちた子の育成及び、児童の問題行動への対応	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や人権の授業等を通じて、命やお互いを大切にする子どもの育成を行う。 事例に応じ、職員全体で共通理解し対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳、人権の授業後の感想で、自分を大切にしたり、相手の心情を考えたりする気持ちの深まりが見られる。 児童の実態を話し合う場を月1回以上設定する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートにおいて、「自分を大切にしたり、相手の気持ちを考えて行動している」と回答した児童の割合は、前年度と比べ下がっている。「家庭では思いやりや命の大切さについて話題にしていますか」についても、前年度と比較すると0.6%下がってきている。自尊感情を高める教育活動の推進については、今後も行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感、自己有用感を高める教育活動の推進を引き続き行っていく。 保護者へ自尊感情を大切にする教育の必要性を参観や講演会・学級懇談会を通じてより啓発し、学校と家庭の協力体制を進めていく。 教師自身も、リフレーミング練習（肯定的な言葉かけ）をしていき、児童の見本となっていくように心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> 例えば、あいさつを通して地域の人のつながりを強めていくなど、校区を巻き込んで、道徳的心情の育成に努めていくことができればよい。 	
	基本的な生活習慣の定着（生活指導の充実）	<ul style="list-style-type: none"> みどりっ子のきまりや緑小しぐさ「あろは」の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> きまりを守り、児童アンケートにおいて、「緑小しぐさ「あろは」について知っている」と回答した割合が90%以上になる。 緑小しぐさ「あろは」を意識して行動できるようになる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「緑小しぐさ「あろは」について知っている」と回答した割合は97.8%で、前年度より0.3%上がった。周知に関して高い割合を維持できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 廊下の歩行など、集団生活のきまりをなぜ守らないといけないのかを児童会活動や道徳の時間等を通して考えさせる。 全職員が共通理解を行い、継続して啓発と指導を続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣である「緑小しぐさ【あろは】」は、継続してほしい。 	

豊かな心・健やかな体	係作り	・いじめへの対応	・年に2回、アンケート調査を実施し、教育相談を行う期間をもうけ、実態調査を行う。	・児童の実態を出し合い、検討する機会を大切ににする。	B	・アンケート結果でのいじめ認知件数は第1回が41件、第2回が83件だった。この結果に基づき、いじめ対策推進委員会を開き、対応・対策について話し合い、教育相談・指導を行った結果、第1回は継続支援が4件で第2回は継続支援が25件だった。今後も児童の実態を出し合い、検討するとともに、日常的に全職員が見守っていく意識を持ち、学級経営に臨むことが必要である。 ・必要に応じていじめ対策推進委員会を設けた。特に、事例発生時は早急にいじめ対策委員会と連携し、早期対応を徹底し、解消・解決を図る事の必要性を感じた。	・月例で行っている相談部の定例会での児童の様子 の情報交換を、今後も継続していく。 ・児童との関わりや、見つめ方などを全職員でさらに研修していく必要がある。 ・いじめへの対応を全職員で組織として取り組んでいく。	・いじめに気づいた子どもが声を上げるには勇気がいる。教員が目配りを欠かさないようにし、保護者の協力を得ながら、クラスの荒れを見逃さないように対応してほしい。 ・校内での事案に対しては、学校運営協議会が関わり、対応に努めてきた。
	健やかな体づくり	・健康な体づくり・体力向上 ・望ましい食習慣の推進	・健康観察を毎日行う。 ・保健だよりを用いて、保健指導を行う。 ・全員遊び（外で遊ぶ）の日をクラスで1週間に1回程度設定する。 ・体育委員による外遊びの大会を企画し実行する。 ・栄養教諭による「食の指導」を実施する。 ・食育だより（一言コメント）を掲示するなどして、活用する。	・健康観察を一日一回行う。 ・保健だよりを用いて、保健指導をつき1回実施する。 ・全員遊びに進んで参加する児童が増える。 ・外遊び大会に多くの児童が参加する。 ・季節の食材を知ったり、栄養について考えたりする。	B	・保健だより等で保護者に健康についての情報提供や啓発を行った。熱中症やインフルエンザ等の流行に対して注意喚起を行った。子どもの健康課題は、年々多様化している。全職員の共通理解を図り指導していく必要がある。 ・みんな遊びの日には、たくさんの児童が外へ出て遊んでいた。多くの児童が遊べるよう、環境は整備しておきたい。外遊び大会は、ポスターなどを作ってお知らせはしていたが、今年度は参加する児童が少なかったように感じる。 ・栄養教諭による「食の指導」を実施した。 ・給食委員会の活動で一言コメントの内容を全校生に広めることができた。	・全職員で共通理解のもと、保健だよりを活用し、学級での保健指導を随時していく。 ・みんな遊びは来年度も継続して行っていきたい。そのために道具や用具の環境は整えておきたいと思う。外遊び大会には、より多くの児童に参加してもらえよう、体育委員主体でポスター制作の他にどのような取り組みができるか考えていきたい。 ・季節の食材や栄養、給食に興味をもってもらえるように、給食委員会で全校生に引き続き伝えていきたい。	・ソフトボール投げに課題が見られるのは、ボールを投げるといふ経験が少ないことが考えられる。遊びの中で動きを身につけたり、体を動かす取り組みを工夫したりするなど、日常的な運動のアプローチを考えてもらいたい。 ・自治協の農園で育てた野菜は、喜んで食べることができるので、体験を通した食育を大切にしてもらいたい。
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・学校情報の積極的な発信 ・安全・安心な学校作り	・学校だより・学年だよりを月1回以上発行する。 ・学校ホームページを月10回以上更新し、今日の出来事以外も載せて、写真等を活用し学校情報を積極的に発信する。 ・安全点検を月1回実施し、学校施設や設備の安全・美化に努める。 ・火災、防犯、地震の避難訓練を学期に1回実施する。	・保護者アンケートにおいて「学校だより・学年だより・学校ホームページなどにより、学校の様子を知ることができる」と回答した割合が90%以上になる。 ・安全点検の結果、問題のない場所が増える。 ・さまざま場面の避難訓練を計画することで、児童がより迅速かつ安全に避難できる。	A	・保護者アンケートにおいて、92%以上が肯定的評価を選択している。ホームページにおいても平均して月10回の更新をすることができた。 ・安全点検の結果、学校施設の安全・美化に努め、不良箇所の修繕や報告を行うことができた。 ・火災訓練では、火元の場所や実施時刻を昨年度と変更したことで、避難経路や避難の仕方について考えることができた。	・学校行事に加えて、地域行事も積極的に情報を発信することで、更新回数を増やしていきたい。タブレットが導入されるため、ICTを活用した学習を進めていることも、合わせて発信していきたい。 ・児童がいざというときに自分で身を守れるように、避難訓練の仕方や形態について、見直し、改善を行っていく。また、安全に関する研修を全職員で行っていくなど、児童と共に教職員の危機管理意識の向上に努めていきたい。	・TM2は、不審者対応の連携から始まった。今後も3校の連携は深めていきたい。

学校関係者評価の総括

- ・学力の向上にあたっては、課題となっている国語力の向上に努めてもらいたい。
- ・読書習慣を身につけるための、新たな手立てを工夫してもらいたい。
- ・健やかな体づくりに関して、日常的な体力の向上に向けた取り組みを進めてもらいたい。

次年度に向けた重点的な改善点

- ・いじめ事案への対応にあたっては、今後とも学校運営協議会と連携を取りながら、未然防止、早期発見・早期解決に取り組んでいく。
- ・地域の学校という意識を持ち、地域の中で子どもを育て、見守っていくことを大切にしていきたい。